

ブロッコリー花蕾の大型化による フローレット増収技術

国内で消費される加工業務用ブロッコリーの大部分は、外国産に依存しているのが現状です。これを国産に切り替えるためには、増収や省力化によって、生産コストを大幅に下げることがあります。スーパーなどで見かける青果用ブロッコリーは、直径 12cm 前後の花蕾の状態ですが、加工業務用は切り離れた小房状（フローレット）で利用されるため、既存の青果用規格に合わせて収穫する必要はありません。そこで、ブロッコリーの花蕾自体をより大きく育てて、フローレットの増収を図る技術を開発しましたので、その概要を紹介します。

☆ 技術の概要

1. 今回調査した品種‘グランドーム’では、青果用収穫サイズ（花蕾径 12 cm）に達してから、春作で約 5 日間、秋作で約 17 日間の栽培日数の延長によって花蕾径 20 cm に達します（図 1）。
2. 花蕾径 12 cm で収穫する場合（対照区）と比較して、花蕾径 20 cm で収穫する場合（大型区）、頂花蕾収量は約 2 倍の 3t/10a、そのうち、フローレット部分の収量は約 3 倍の 2t/10a になります（表 1）。

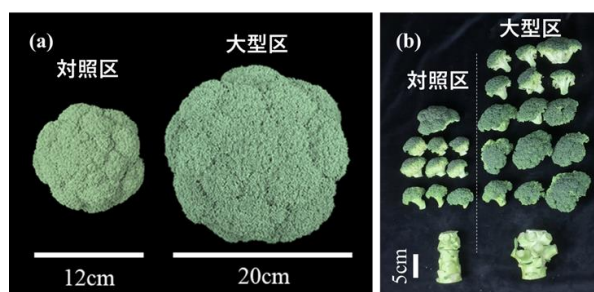


図1 ‘グランドーム’の(a)サイズ別の花蕾と(b)フローレットの様子

表1 作期別の花蕾大型化の影響 品種‘グランドーム’

作期	処理	花蕾径 (cm)	頂花蕾重 (g)	フロー レット重 (g)	頂花蕾収量 (kg/10a)	フローレット 収量 (kg/10a)
春作	対照	12.1	433	226	1,351	705
	大型	20.6	929	660	2,902	2,061
秋作	対照	12.2	488	257	1,526	802
	大型	20.8	1,022	756	3,194	2,362

播種日（定植日）は2018/2/14（3/9）、8/2（8/29）、2019/2/13（3/13）、8/2（8/26）、栽植密度3,125株/10a

☆ 活用面での留意点

1. 花蕾径 20 cm 以上になると緩みなどの品質低下が起こりやすくなりますので、実用化にあたっては、より品質が安定している 16~18 cm 径を中心に収穫し、最大でも 20cm 径に収まるくらいを目安に収穫することを推奨します。
2. 実需者による品質評価を行い、受け入れ可能な品種、大きさをよく検討してください。
3. 加工業務用ではサイズのばらつきが許容されると考えられるため、細かい規格を気にせず一斉収穫が可能となり、収穫・調製・出荷作業の省力化が期待されます。
4. 詳しいことは、農研機構のお問い合わせフォームをご利用ください。

(<https://prd.form.naro.go.jp/form/pub/naro01/research>)